



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

できなかったことをできるようにし、新年度をスタートさせましょう ●●学習内容の確実な理解と定着を図る取組を！●●

第2回みえスタディ・チェック（対象：小5、中2）の結果を過去の結果と比較することで、「できるようになった設問」と「できなかった設問」が明らかになります。1年を振り返り、「できなかった設問」を年度内に確実にできるよう、学校全体で取り組んでいきましょう。

取組のステップ

- ①令和4年度第2回みえスタディ・チェックの結果から、「**できなかった設問**」を明らかにする。
- ②いつ、どのように課題の改善を行い、定着状況を測るかを全教職員で確認し、取組を進める。
- ③定着が不十分な児童生徒には、朝の短時間学習、補充学習、家庭学習等を活用し、個に応じた指導する。

学校、学級の強み、弱みの確認を！

「S-P表」を活用すると、学校、学級の強み、弱み、児童生徒一人ひとりのつまずきが一目瞭然です!!

令和4年度第2回みえスタディ・チェック結果 (経年課題等)

	教科	問題番号	設問内容	過去の出題	県平均正答率		改善状況
					過去	今回	
小5	国語	2	示された述語に対する主語を選択する	R3第2回 みえス外5	74.8%	74.4%	-0.4
		3	接続語を使って一文を二文に分けて書く	R3第2回 みえス外5	42.4%	38.5%	-3.9
		7三	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができる	R4全国学調 小国	44.2%	33.6%	-10.6
	算数	3	12÷0.8の式で求められる問題をすべて選ぶ	R3第2回 みえス外5	24.8%	23.3%	-1.5
		10	水平になっていない辺を底辺としている直角三角形の面積を求める	R3全国学調 小算	47.4%	47.8%	+0.4
		12(3)	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述できる【理由】	R3第2回 みえス外5	26.1%	20.7%	-5.4
中2	国語	1三	傍線部「入っていた」の主語として、適切なものを選択する	R3第2回 みえス中2	34.6%	33.7%	-0.9
		3二	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる	R4全国学調 中国	46.5%	39.3%	-7.2
		5三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	R3第2回 みえス中2	30.1%	20.8%	-9.3
	数学	6	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	R2第1回 みえス中2	42.8%	48.6%	+5.8
		11	反比例のグラフから表を選ぶ	R4第1回 みえス中2	52.2%	47.3%	-4.9
		16(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	R3全国学調 中数	11.0%	14.7%	+3.7

(「今回」の県平均正答率は、2月27日時点の数値です。)

できなかった設問への取組

「できなかった設問」については、授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習の場面で、県が提供している教材や学校・市町独自の教材を活用して、一人ひとりの子どもができるように指導してください。

県が提供しているワークシート等

◆学-Viva!! セット 第23弾◆

これまでの全国学力・学習状況調査や、みえスタディ・チェックの結果分析から「これだけは、確実に理解できるように」と、厳選した問題で構成したワークシート集です。

対象・教科

小学校第5学年：国語、算数

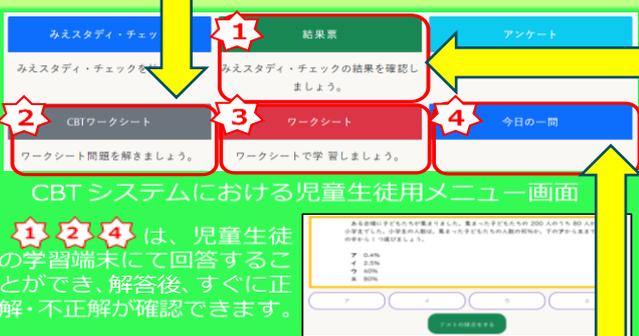
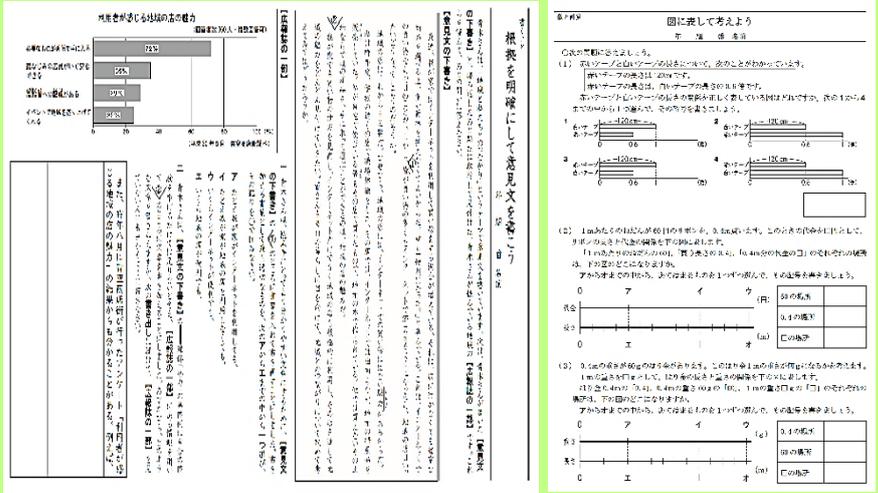
中学校第2学年：国語、数学、英語

●年度末、年度初めの取組に！

※1教科、8～10シートで構成（中学校英語は5シート）

※家庭学習等で取り組みやすいよう、裏面に解答を掲載

※小5、中2の児童生徒の学習端末にも提供



◆みえスタディ・チェック CBT 関連問題◆

※みえスタディ・チェック終了後、児童生徒は自分の端末ですぐに設問ごとの正解・不正解を確認することができます。

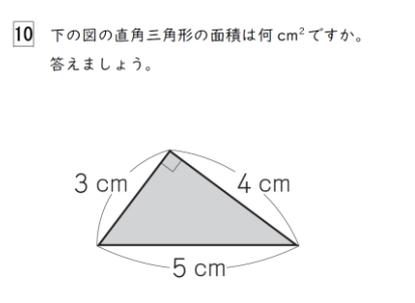
※一人ひとりの定着状況に合わせた学習ができるよう、みえスタディ・チェックの設問ごとに、正解の場合は、さらに難しい問題を、不正解の場合は、学習内容を遡った問題を端末に提供しています。

「結果票」から、すぐに、正解・不正解に応じた問題に取り組めます。

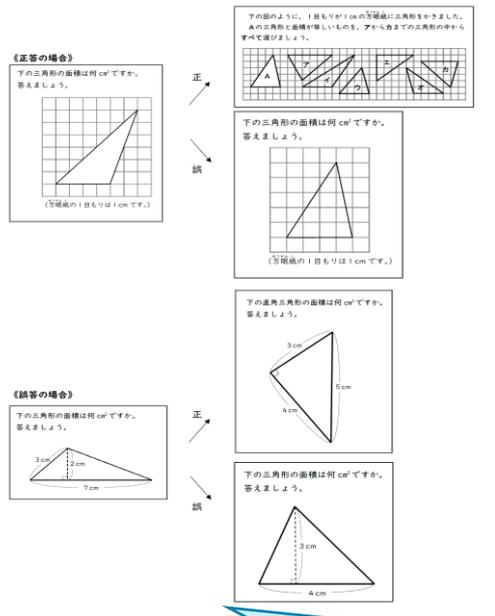
◆今日の一問◆

小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒の学習端末に、基礎的な問題を提供します。
 ※2月1日(水)から3月31日(金)まで毎日1問
 ※5～10分でできる問題

(例) 令和4年度第2回みえスタディ・チェック
 小学校算数 設問10



設問10 関連問題



◆学-Viva!! ドリル◆

まとめの学習や補充学習、家庭学習等で活用できる、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題を集めたワークシート集です。

各設問の関連問題は、教師用解説資料に載っています。



「主体的・対話的で深い学び」の視点から協議を通して授業改善へ！ 令和4年度「授業実践研修」



研修推進課が実施する「授業実践研修」は、初任者研修（初任）、教職6年次研修（6年）、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ（中堅）の受講者が、校種別・教科別の班（教科によっては、異校種合同研修班）に分かれて、授業について協議し、得た学びを日々の授業改善に活かす4回の連続講座です。令和4年度は1,172人の受講者（初任：434人、6年：392人、中堅研Ⅰ：346人）が、125班に分かれて相互研鑽を行いました。

授業実践研修のねらい

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業づくりの基礎について学び、授業改善に対する意欲を高める。
- ・子どもの学力向上をめざし、自らの授業改善と課題解決に向けて、主体的に研修に取り組む力をつけ、学校での自主的な研修につなげる。
- ・経験の異なる教員が研修班に分かれ、授業研究を通して、継続的な相互研鑽による授業改善を図るとともに、授業力の向上をめざす。

◎ 授業改善のポイント ◎

- 見通しを持って学習に取り組めるよう、めあてを提示し、振り返りを行っているか。
- 他者の考えを聞き、自己の考えを広げ深める場面を設定しているか。（多様な表現手段や対話場面の設定）
- 各教科等に応じた「見方・考え方」を働かせながら、より深く理解したり、問題を解決したりする、習得・活用・探究という学びの過程を取り入れているか。

☆ 授業実践研修 1（遠隔研修）、2（集合研修） ☆

授業実践研修1では、個別最適な学びと協働的な学びの視点から「主体的・対話的で深い学び」について理解を深めました。また、円滑な協議の進行のために、ファシリテーションの考え方を学び、その後の協議で実際に活用しました。授業実践研修2では、研修班で集まり、授業実践研修1の振り返りと自身の授業実践についての課題の交流を行い、それらをもとに研修班の「研修テーマ」を設定し、今後の計画を立てました。

研修班の研修テーマ（主体的・対話的で深い学びの視点から）
①子どもにつけたい力
②重点的な取組
③次回までに取り組むこと

< 研究協議の様子 >



みんなの課題意識を総合すると、この研修班で取り組むテーマは・・・

< 受講者の声 >

同じような課題を持っている方々と、授業で大切にしたいことや、悩みを共有することで、共感することがたくさんあった。だからこそ、研修テーマを決めて実践を行うことで、有意義な研修の機会となると感じた。

研修テーマを意識して日々の授業で実践

◎ 授業実践研修 3、4（授業公開校での集合研修、Zoomを活用した遠隔研修） ◎

授業実践研修3、4では、研修テーマに基づいた実践を、中堅・6年は授業公開またはビデオ授業公開を、初任は実践報告を行い、それぞれの実践について、ファシリテーションの考え方を活用して授業改善に向けた協議を行いました。協議は模造紙と付箋（遠隔ではGoogleJamboard）を使って行いました。

授業公開後の協議では、まとめとして、「授業の課題と具体的な改善方法」について話し合いました。また、授業実践研修3では、「授業実践研修4までに取り組むこと」、授業実践研修4では、「2月末まで取り組むこと」を各班で決めて、授業力向上、子どもの学力向上へつなげられるよう、各自が日常的に授業改善に取り組まれました。

今年度は教員をめざす大学生も研修に参加し、授業や協議の様子を参観しました。

< 研究協議の様子 >

「対話的な学び」ってただペア学習をさせていけばいいわけじゃないんだね。
何を考えたらいいのかが明確になれば「対話的な学び」が生まれそう。



「対話的な学び」を生むためには、問いはもちろんだけど、ねらいを明確にした授業構成が大事だね。
対話を通して「深い学び」を生むためにはどうしていったらいいのかな？

1時間の中であれもこれもおさえるのは難しいよね。

教師がつい説明したくなるけど、それでは子ども達の「主体的な学び」にはつながらないね。

子ども達が説明したくなるような授業展開ができれば「主体的な学び」につながるね。

今回の授業でICT機器を使う場面は適切だったのかな。

「効果的なICT活用」がこの班の取組だけじゃなく、ICTを使わせることが目的になっていたかも。

子ども達が思考し、考えを深めるためには、この時間でつけた力を明確にして焦点化させる必要があるね。そのための手段の一つがICT活用なんだな。

< 受講者の声 >

- ・たくさんの先生方の授業実践例を見て、一つの単元であっても、生徒につけさせたい力をもとに色々な授業計画を立てることが出来るので、引き出しが確実に増えました。どんどん取り入れて、学習活動をもっと深い学びにしていきたいと思いました。
- ・ほかの学校の先生方とお話することで視野が広がっていくことが実感できました。毎回わくわくする実践研修でした。
- ・回を重ねるごとに、内容が洗練されていき、指導方法や改善策が具体的にになってきました。また授業をビデオ公開させていただき、班の方たちにたくさん意見をいただき大変勉強になりました。
- ・ICT機器は活用の場を見極めて使っていくことが大切であることがわかった。また逆に、ノートやワークシートを活用することの良さを改めて感じることもできた。

～「チーム城山」で子どもが主役の授業を創り出す～

城山小学校では、令和元年度から、横浜国立大学名誉教授である高木展郎先生を講師として迎え、子どもたちが主体的に進める、「聴いて、考えて、つなげる授業」づくりについて助言をいただきながら、授業研究を進めています。今回は「チーム城山」の実践で土台づくりとして特に大切にしている、【聴き方話し方】の指導を紹介します。

1 「聴く」「話す」を軸とした学習規律

下のような掲示物を全学年で活用して、学習規律を確立させます。



この掲示物には、よい聴き方、話し方が具体的な動作として示されています。必要に応じてこれらを示しながら、日々の授業の中で、できている児童をほめたり、認めたりすることで指導を徹底していきます。

2 「分からない」と、自分から言える教室

安心して、自分から「分からない」と言える教室を1学期の間に作り上げるため、下の掲示物を活用します。

【あたたかい聴き方】では「話し手が思わず自分の思いを伝えたいくなる」ような、受容と共感の「反応」の仕方を示しています。

「反応」は、「聴いて」いることをメッセージとして返す意味があります。「反応」することを習慣化することで話し手が安心して話すことができ、「分からない」と自分から言える教室が実現します。

【やさしい話し方】の「やさしい」には、「人に対する優しさ（おもいやり）」と「行為や話の内容の易しさ（分かりやすさ）」の二つの意味があり、相手意識を持って話すことを児童に求めています。



3 【ステップ10】で目指す「聴き方」・「話し方」を共有

右の【ステップ10】を使って、1年間で目指す姿を子どもたちと共有します。最終目標は、友だちの意見を聴いて、考えて、自分の出番でつなげて話せることです。

教師は「今このステップだね」「次はこれができるように頑張ってみよう」と呼びかける等、日々意識づけを行います。

Lv	あたたかい聴き方 ステップ10	学年	やさしい話し方 ステップ10	Lv
10	『ふりかえり』で自分の考えが深まる	4-6年	自分の『出番』で話す	10
9	わからない時、自分から言う	4-6年	友だちの顔を見ながら説明	9
8	友だちが何を言いたいのかわかる	4年	話を区切りながら、説明	8
7	自分の考えと、似ているか、違うか	4年	友だちの考えにつなげる	7
6	友だちにアドバイス	3年	『問い・参加・例えば』を使う	6
5	友だちの話を、繰り返し言う	3年	意見→理由→確認の順で話す	5
4	「どうして？」「なんで？」と反応	1-2年	指示棒で黒板やテレビを指す	4
3	うなずき・つぶやき、自然な反応	1-2年	みんなに聞こえる声	3
2	最後まで話を聴く	1-2年	みんなが見やすい場所に移動	2
1	話す人を見る	1-2年	呼ばれたら「はい」と返事	1

※全学年が同じステップ表を共有しているため、子ども同士の授業参観（異学年で授業を見せ合う取組）の際に同じ視点でアドバイスをを行うことができました。

4 論理的な表現の指導

授業では「学び合い」に入る前に「一人学び」（自力解決）の時間をしっかりとります。ノートに「意見・根拠・具体例」を書かせることで、論理的に表現させています。



「学び合い」の時間は、この3つを明らかにして自分の考えを話します。

「聴いて、考えて、つなげる授業」、「論理的な表現指導」の実際～6年生「海の命」

A「Bの意見に似てるけど、考えは『海の命だから』で、根拠が…222ページに『海に帰りましたか。与吉じいさ、～～ぼくも海で生きられます。』って書いてあって、僕も海で生きられますってことは、太一も海で生きていくってことだと思って…」

クラスの反応 うんうん。

※赤字は「考え」、青字は「根拠」（教科書）、黄色の網掛けは具体例（なぜそう考えたのか）

A「で、海と生きていく上で、瀬の主を殺してしまったら、一緒に生きていけないやん？海が死んでしまうんやから。だから、自然を大切に、海と一緒に生きていきたい、太一は、瀬の主を殺してはいけないから、殺さなかったんだと思うよ。」

クラスの反応 確かに。なるほど～。

B「これ私のとつながってるよね。」

C「私は意見だけなんだけど、瀬の主が海の恵みだと思ったよ。」

D「言い方ちがうけど一緒だね。」

聴いて、考えて、
つなげる授業

城山小学校長からのコメント

本校では、どの先生がどの学級の授業をしても、同じように【聴き方、話し方】の指導ができることを目指してきました。その結果、上記の授業記録のような「聴いて、考えて、つなげる」子ども達の姿が実現しました。このように子どもたちに力をつけることができたのは、教職員全員がチームとして一致団結し、継続して取組を進めてきたからです。今後も、チーム城山の挑戦は続きます。